



文豪ブーム到来!?(後編)



前編では、一風変わった文豪ブームについて書いていきましたが、登場した文豪・作品たちでも「名前は知っているけど、読んだことがない」というものがあつたのではないのでしょうか。そこで今回の後編では、有名な文豪たちを、その代表作を交えながら紹介していきたいと思います。『作品名』をクリックすると青空文庫のページに飛びますので、興味が湧いた方はぜひこの機会に、文豪たちの作品を読んでみてください。

(※下記リンク先は外部サイトを含みます。よろしければ、クリックしてお進みください。)

夏目漱石(1867~1916:享年49)

旧千円札の肖像画でもお馴染み、明治の文豪の1人。一般人でも読みやすい、口語体の小説を広めた立役者でもあります。英文の「I love you.」を「月が綺麗ですね」と訳したことで有名です。実は、本格的に小説家として活動を始めたのは、漱石が40歳の頃からで、わずか9年の間でした。

代表作：[『吾輩は猫である』](#) [『ころ』](#) [『坊ちゃん』](#)

福沢諭吉(1835~1901:享年66)

今も昔も、壹万円札といえばこの人。日本初の蒸気船「咸臨丸(かいりんまる)」で渡米したことで、西洋文化を積極的に日本へ取り入れようとした立役者です。児童にもわかりやすいように、世界各国の地理・歴史をまとめた『世界国尽(せかいくにづくし)』は当時のベストセラーになりました。

代表作：[『学問のすすめ』](#)

芥川龍之介(1892~1927:享年35)

日本の有名文学賞である「芥川賞」としても名前が残っている、明治・大正の大作家。上に書いた夏目漱石を「先生」と仰ぎ、生涯にわたり慕っていたそうです。また、非常に短い人生を、自殺というかたちで終わらせた作家でもあり、遺書に残した「将来に対するぼんやりとした不安」という一文が有名です。

代表作：[『羅生門』](#) [『地獄変』](#) [『河童』](#)

太宰治(1909~1948:享年39)

穏やかな作品と退廃的な作品、2つの作風を持つ短命な作家。その作品も有名ですが、自殺未遂4回を経て、最後は玉川上水で心中するなど、波乱万丈な人生もよく話題に挙がります。その一方、当時の芥川賞選考委員会に「芥川賞をください」と懇願するような、かわいい一面もありました。

代表作：[『走れメロス』](#) [『富嶽百景』](#) [『人間失格』](#)

すみません、載せきれませんでした。次回に続きます! [他にも気になる情報がいっぱい!](#) **Dr.関塾 佐須街道校**